



# 学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University  
Museum of History

# Museum Letter No.40

発行日 ● 平成31年(2019)3月20日

もくじ

ごあいさつ.....	1
「華ひらく皇室文化展」に寄せて —ボンボニエールの思い出— .....	2～3
「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展 学習院大学史料館会場の見どころ .....	4～5
もう一つの「華ひらく皇室文化展」 泉屋博古館分館会場の見どころ .....	6～7
おしらせ.....	8



「華ひらく皇室文化展」2館共通ポスター

## ごあいさつ

明治150年を迎えた昨年春より「明治150年記念 華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展は名古屋・秋田・京都を巡回し、いよいよ平成最後のこの春、東京での開催となりました。東京では泉屋博古館分館(3月16日～5月10日)と当館(3月20日～5月18日)の2会場での開催となります。

この展覧会は当館客員研究員・学芸員による明治皇室の美術工芸品調査研究が基となり、大規模な展覧会として披露できることになりました。まさしく当館の調査研究が“華ひらいた”わけです。

4月27日(土)には、同展覧会実行委員会名誉委員長である彬子女王殿下をお迎えして、史料館講座・シンポジウムも開催されます。展示・講座ともにお運びいただき、当館の調査研究の成果を是非ともご覧いただけると幸いに思います。

ミュージアム・レターも今号で40号となりました。当館客員研究員として平成4年(1992)より25年余の長きにわたり調査研究を続けられていらっしゃいました皇太子徳仁親王殿下から、幸いにもご寄稿いただきました。

皇太子殿下はじめ、本展覧会に御協力いただきました所蔵者・所蔵機関・関係者の皆様方に御礼申し上げます。

(平成30年度 史料館長 坂本孝治郎)

## 「華ひらく皇室文化—明治宮廷を彩る技と美—」展

明治維新は、政治体制の転換にとどまらず、文化・社会の面でも大きな変革をもたらしました。皇室も例外ではなく、その生活は大きな変革を余儀なくされました。諸外国との外交のために、洋装を取り入れ、洋食にて外国使臣をもてなします。その舞台は、延遼館、鹿鳴館、そして明治宮殿と移り変わります。

もてなしの場の調度品は、当初は西洋の製品を使用していましたが、明治10年(1877)の第1回内国勸業博覧会を契機に国産化へと舵を切っていきます。

明治19年(1886)には洋装が婦人の正式な服制になりました。しかし、そのドレスには日本刺繍が施されているものが多く見られます。これは、洋装は古代の衣・裳と同形式であり導入することは理にかなっているが、その材料や技術には必ず国産品を用いるように、との皇后の思いによるものです。

皇室の慶事の際に配られるボンボニエールにも日本の伝統的な意匠が多く取り入れられ、明治維新により職を失った刀剣金工師達はその製作を担いました。皇室よりの下賜品にも漆芸品など日本の伝統工芸品が多く使われています。

一方、宮中御内廷での生活では伝統的な儀式や生活様式が受け継がれており、「着袴の儀」や「御爪箱」などは現在に至るまで、継承されています。皇室が西洋文化を受容する中でも日本の伝統文化の保護・育成を重要視していたことがわかります。

明治150年、明治皇室が守り伝えようとした日本の技と美をご覧いただきたいと思います。

(学習院大学史料館学芸員 長佐古美奈子)